

8
1998.5

薬友会報

千葉大学薬友会



アユタヤ

バンコクの北77km、四方をチャオプラヤ川とその支流に囲まれて、古代都市プラナコン・シー・アユタヤがあります。1350年ウートン王によってアユタヤ王朝が開かれ、417年間にわたってタイ王国の首都だった町です。13世紀にはインドシナ半島最大の町として栄え、17世紀には周辺諸国や中国、西欧諸国との貿易で隆盛をきわめました。しかし、1767年ビルマの侵攻をうけアユタヤ王朝は滅亡。その徹底的な破壊・略奪により、アユタヤの町は荒漠たる廃墟と化してしまいました。くずれかけた巨大な仏塔、レンガの土台のみ残された建物の跡、首や腕のない石仏……。静かな田園の草むらに数多く残る荒涼たる遺跡に、往時の栄光・栄華をしのぶことができます。

薬友会会长あいさつ	2	福沢寿先生ご逝去	16
専攻科委員長あいさつ	2	原田正敏先生ご逝去	16
新任教授紹介	3	薬友会より	16
特集（タイ王国との学部間交流）	4・5	学部だより	17
会員だより	6	卒業生の進路・	
研究室紹介	7	薬学部入学者出身校別一覧	17
クラス通信	8～14	学会賞受賞者・主催学会一覧	18
支部だより	14	学位授与者一覧	18
亥鼻会・みのはな山岳会	15	職員の異動	19
サークル紹介（薬学野球部）	15	生涯教育セミナー開催のお知らせ	20

千葉薬は、いま



21世紀に向けて社会環境が激変して行く中で、長野で第18回冬季オリンピックが開催され、人類の平和と団結が如何に重要なかを思い起させてくれました。日本は超高齢化社会に突入し、科学技術が大きく進歩して、大学も将に時代の流れに沿ってこれまでとは違った社会貢献をも期待できるよう変革が求められています。本学部が西千葉に移転してから今日まで31年が経ちました。その間、平成元年に薬学部創立100周年の記念行事が行われました。また平成11年には新制千葉大学の創立50周年を迎えます。昭和54年に大学院博士課程設置、昭和62年に旧生物活性研究所から3研究室が加わり、平成9年には大学院医療薬学独立専攻科が設置されて国立大学薬学部の中で最も大きな規模を有するまでに発展し、きわめて活発な研究・教育活動が行われています。

しかし、昭和41年に竣工した1号館、2号館は老朽化し、研究室・学生数の増加に見合う校舎の建設が進まないため、教育・研究の場は極端に手狭となって、校舎の建て替え、また新造営が叫ばれてから久しくなります。一方では、園芸学部の西千葉地区への移転が論議され、また各学部とも校舎建て替えの時期が来ています。バブル経済の崩壊後、国の経済状態も悪化し、要望達成が困難な状況にあります。このような中で千葉大学のマスター・プラン（平成7年12月合意）に従って薬学部は再び亥鼻地区への移転を前向きで検討しています。この計画には今後乗り越えなければならない難題が山積しておりますが、移転によって教育・研究の活力が低下するような妥協は許されません。移転による利点を最大限生かすには、これから学部・大学院の改組と密接に関連づける必要があります。一つの道は医・薬・看護の三学部を中心として医療系独立大学院を亥鼻地区に設立する計画を推進することあります。時代の流れは生命科学に向かいつつあり、千葉薬は決して独自性を失うことなく、新しい時代の薬学を模索することになりましょう。同窓生、職員の協力と自覚をお願いする次第です。

専攻科委員長あいさつ

総合薬品科学専攻長 中川 昌子



平成9年4月より薬学研究科は從来の総合薬品科学専攻に新たに医療薬学専攻が加わって、ここに念願の2専攻体制へと大きく前進いたしました。これに伴い各専攻科に専攻科長がおかれるようになり、私が総合薬品科学専攻長に選出され、もう既に一年が過ぎようとしています。

総合薬品科学専攻科は、衛生薬学、医薬品素材学、薬効・安全性学、医療薬剤学、附属薬用資源教育センターの今迄の薬学研究科の大部分を含む、15の研究室から成っています。研究科は今迄通り博士前期課程いわゆる修士課程（2年）と博士後期課程（3年）に分かれています。平成10年度は、2専攻合わせて総勢73名〔総合薬品科学専攻 46名；医療薬学専攻 27名〕という多数の修士課程への入学者を受け入れることになりました。特筆すべきこととして、今年初めて女性の割合が50%を超えたことでしょう。一方博士課程への入学者も増加の傾向がみられ平成10年度の入学者は20名となります。この中には留学生や社会人入学者も含まれています。

このように今や千葉大学の薬学研究科は今迄の薬学の領域が広くなり、21世紀の生命科学の一端を担うための発展が期待されています。微力ながら使命を果たせますよう努力したいと思います。皆様の一層の応援を期待しています。

医療薬学専攻長 五十嵐一衛



昨年度の本会報で“医療薬学動き出す”という特集が組まれましたが、近年、医療チームの一員としての薬剤師の活躍が期待されています。千葉大学薬学部では、医療薬学の充実を目指し、平成9年4月より千葉大学大学院薬学研究科医療薬学専攻が発足致しました。薬物治療学と医薬品情報学の新しい2講座が独立専攻として認められた他に、総合薬品科学専攻から4研究室が薬物理学、薬剤学、病態生化学、病院薬学講座として参加致しました。計6講座で、学生定員は博士前期課程が18名、後期課程は8名です。平成9年度は4月に入試を

行つたため、わずか8名の入学者でしたが、平成10年度は27名が入学致しました。カリキュラムの特徴は、病院実務実習（4ヶ月）、臨床実務実習（1ヶ月）、及び保険調剤薬局実務実習（1ヶ月）を導入したことです。何分にも昨年度から始まつばかりであり、これから試行錯誤を重ね、内容の充実を計っていきたいと考えています。実習ばかりではなく、どのような研究・教育体制が医療チームの一員としての薬剤師養成にふさわしいかも検討中ですので、いろいろと御指導御鞭撻の程お願い申し上げます。

新任教授紹介

薬物治療学講座 矢野眞吾（昭和45年東京大学大学院博士課程修了）



平成9年度より、従来の大学院に加えて、「医療薬学専攻」が発足しました。薬物治療学講座は本専攻を構成する講座の一つとして誕生しました。私はこの大きな期待の掛かる新講座を平成9年4月1日より担当することになりました。浅学の身にとって余りに責任が重すぎますが、ともかくも医療薬学の発展のために微力を尽くす所存であります。

私自身はこれまで薬品化学研究室において故原田正敏教授、渡辺和大教授の下で、専門領域としての薬理学はもとより、研究・教育にとって重要な多くの事柄を学ばせていただきました。新講座ではこれまでの経験を踏まえて、医療薬学が真に新しい専門領域になるよう研究・教育に邁進したいと考えております。幸いにも助教授には薬物学研究室より上野光一氏を迎え、強力な協力者を得ることができました。

今後とも、薬友会の皆様方のご支援をよろしくお願い申し上げます。

医薬品情報学講座 上田志朗（昭和50年千葉大学医学部卒業）



千葉大学大学院薬学研究科医療薬学専攻医薬品情報学という大変長い名前の教室が平成9年4月に新設されました。畠本前薬学部長、五十嵐教授、および北田教授の御尽力により医学部の第一内科におりました私が教授として就任させていただきました。私は昭和50年に千葉大学医学部を卒業して以来、内科特に腎臓病・膠原病を専門として臨床経験を積んで参りました。最初にお話しがあった時にはかなり戸惑いましたが、間質性腎炎と薬剤性腎症を究面においてライフケアとしておりましたのでお受けいたしました。

助教授として医薬品情報学を専門とする優秀な望月真弓さんが就任してくれましたので、大変たすかっています。まだ新しい教室で研究室の充実がこれからの課題です。平成10年4月には教室員が総計18名となりますので、かなりの仕事ができるものと思われますが、その責任の重さを痛感しております。教室の研究課題としては医薬品の情報収集・整理を1つの柱とし、薬剤性腎症の発症機序の解明、腎炎の薬物治療などの研究や肝不全・腎不全などの臓器不全時の薬物の適正使用法の研究など臨床に近い立場での研究も志しております。今後の皆様のご指導・ご鞭撻をお願いして筆を置かせていただきます。

活性構造化学研究室 石橋正己

（昭和55年東京大学理学部卒業、昭和60年同大学院博士課程修了）



平成9年11月1日付で北海道大学薬学部より赴任しました石橋と申します。先代の山崎幹夫先生の後任として当研究室を担当させていただくこととなり、毎日身が引き締まる思いです。こちらでは山崎先生のスタッフと学生の皆さんを引き継いでの新たな出発となりました。

北大では7年余り生薬学講座の助教授として薬学教育に携わるとともに、主に海洋生物を対象とした天然物化学の研究を行ってまいりました。こちらでも天然薬用素材からの有用生物活性新分子の探索に重点をおく、いわゆる「ものとり」の研究を中心にしていきたいと考えています。また、それを通じて薬学研究を志す若い人材の教育に励みたいと思います。本薬学部のさらなる発展のために微力ながら精一杯努力していく所存ですので、薬友会の皆様には、ご指導ならびにご支援の程を何卒よろしくお願い申し上げます。



タイ王国との学部間交流

タイ王国との学部間協定

千葉大学名誉教授 坂井進一郎

故萩庭丈寿先生（生薬学・名誉教授）を代表者とする文部省の海外学術調査班が1968年に組織され熱帯薬用植物資源調査研究を台湾統いてタイ国で実施され、これが端緒となり表題の協定へと発展して参りました。

1991年にはチュラロンコン大学薬学部との協力研究が文部省科研費により千葉大学薬学部間で始まりましたが、別途に同年に東京大・薬が主催校とし、千葉大・薬も協力校として日本の全薬学系大学より参加可能な日・タイ間の研究者交流が日本学術振興会の助成により10年計画で並列して行われ現在では両国間の関係が益々縮密になって参りました。昨年からは千葉大・薬とタイ国北部のチェンマイ大学薬学部とで学部間の協力研究が3年計画でスタートし実動致して居ります。

以上の交流はすべて教官のみであります、1994年から学生の交流も始まりました。これは千葉ライオンズクラブの好意によりタイ国学生への1ヶ月間の日本滞在の奨学金が提供され、これに対応してタイ側では千葉大・薬の学生2名を毎年1ヶ月間招待して下さり両国間の学問・文化の交流が若い世代に提供された次第です。残念ながらこの交流も1999年末で終了致しますが合計で27名の両国の学生交流が実現できることになります。将来に新しい両国の希望の芽が生まれることを祈る次第です。



タイ王国との学部間交流

千葉大学薬学部教授 相見 則郎

大学に課せられる使命は3項目、(1)学術研究の高度化、(2)高度職業人の養成、(3)教育研究を通じた国際貢献、だと言われます。日々とした努力の積み重ねだけが目的達成の唯一の手段だという点と、成果が目に見える形で現れにくいという点では(1)から(3)まで皆同じなのですが、(3)の国際交流の難しいところは“社会からの要請”、“社会への還元”というときの「社会」が

「国際社会」という、漠然とした、あるのかないのか判らない存在だという点にあります。このため(3)はややもすると一部の研究者、研究グループのお遊びと見られ、やっている本人ですら仕方なしのおつきあいと考えたりするけがあります。諸先輩の日々とした努力の結果、我々の学部は(1)と(2)に関して高い評価をかち得ています。その認知が国内的なものにとどまっていて、気がついてみると21世紀の世界大学ランク表から取り残されてしまっていたということのないように、正当な対外的自己アピールが必要です。来るべき世紀の主役の一員を担うタイ王国との共同研究を通じて東アジア、東南アジアの研究拠点としての千葉大学薬学部の存在感を印象づけることの共同研究は、国際的、長期的スパンでの学部将来展望の一端を担うものです。



チェンマイ大学薬学部長ジャラバン先生（中央）
およびドイツ人講師ミュラー博士夫妻と共に

タイ王国との学部交流に参加して

千葉大学薬学部教授 石川 勉

お暑蘇氣分の抜けきらない1月5日、我々一行（渡辺和夫、中川昌子、鈴木和夫の3教授に小生）は、一週間の予定で気温約35度のタイへ出かけた。今回の主たる目的は、チェンマイ大学薬学部との学部間交流の一環であるが、既にその歴史を持つチュラロンコン大学も併せて訪問することにした。中川教授と小生は初めての渡タイであったが、経験豊富な渡辺、鈴木両教授やタイ側関係者の高いホスピタリティのおかげで、大きなトラブルもなく無事日程をこなすことができた。この滞在中、

日本で酷評されたタイ米も含め、タイで食した料理の美味しさは忘れない。また、景気の後退によるバーツの下落等で、タイは若干精彩を欠いているように思われたが、国民一丸となってドルに立ち向かおうとする姿勢がとても印象的であった。既にこれまで双方共多くの関係者が相互訪問をしている。今後さらにそれぞれの立場に立ったより積極的な国際交流が深まることを期待したい。



タイ王国との学部交流

製剤工学研究室 修士2年 風間 和夫

現在タイの経済状態の低迷が騒がれていますが、国民の活気、特に若者の活気はそんな中でも全然衰えているといった印象を受けませんでした。

タイで私は向こうの大学にお世話になり、休日には観光等も楽しみました。しかし一番楽しかったのは向こうの学生とのコミュニケーションでした。もっとも、一番印象的だったのはタイ人の食文化でしたが（笑）。最初のうちはむこうの学生の英語力にただただ感心していました。しかし、もっと本質的な違いに気付きました。それは目的意識の有無です。日本の学生の目的意識の欠落についてはよく指摘されますが、それを肌で感じることができました。1ヶ月という短い期間では何かを身に付けることはできませんが、アクションをおこすきっかけを得ることはできると思います。

情報化時代の昨今、ワールドワイドなもの見方、考え方が必要になっていきます。このような交流がますます発展していくことを期待します。



会員だより

医療薬学を担当して

宮田 満男 (昭和32年卒)



私は薬剤師がコメディカルとして何を求めたらよいかを考えるとき、なぜか大腸癌で死んだ父の主治医を思い出す。苦渋に満ちた表情から目に涙して自らの拳を痛いほど机に打ちする姿である。

患者中心の医療を支えるチームメンバーの1員として、今こそ薬学関係各位が、何をなすべきかを考える好機である。私は、まだあどけなさの残る4年生を前にして、何をどう教えたらいよいか途方に暮れることがある。

中川昌子先生、上野光一先生のお勧めで小著を出すことが出来たが、疾病病態と薬物療法の教育内容について、次世代の指導者の育成について、あらためて考えさせられる今日このごろである。

「国政に効くクスリ」になろう

森田 修 (昭和48年卒 自由民主党群馬県小選挙区支部長)



三年前、平成7年度統一地方選挙の際に“町に効く薬になります”をキャッチフレーズにして伊勢崎市議会議員に立候補し、幸いにも多くの地域の方々の支援を頂くことができ無事当選しました。

それから1年間ほど、家業の薬局経営のかたわら郷土伊勢崎市の市政に携わっておりましたが、諸般のいきさつから自民党公認の衆議院議員候補として総選挙に出馬して欲しいとの強い要請を受けました。薬学を学んだ自分が衆議院議員選挙へ立候補するなど思っても見なかったことでした。熟慮の末、要請に応えて立候補を決意し選挙戦を戦ってはみたものの、知名度や運動期間の短さが災いしたのか善戦むなしく次点となり、初心は果たせませんでした。

市議を辞退して立候補したので、言うならば“浪人”中の身であったところ、党執行部から「自由民主党群馬県小選挙区支部長」に任命され、現在は再起を期して精力的に活動しています。

政治に携わる上では人との幅広いつながりが極めて重要であり、目下人脉作りをモットーとして講演会など様々なイベントを行っています。その一環として、昨年11月に「森田 修と音楽を閉む夕べ」を開催し、その際、薬学部同窓の佐藤邦雄博士（群馬大医学部再入学、慶寿会前橋城南病院副院長）にご講演賜り、大盛況のうちに終えることができました。千葉大学薬友会の力強いパワーを感じ、感謝に堪えません。

残念ながら最近は薬の方とは少し疎遠になってしまいました。しかし新聞を読んでいても介護保険をはじめ薬事関係・保健制度などの記事には自然と眼が行ってしまいます。“国政に効く薬になる”ことを目指し、薬学分野からの代表のひとりとして政治の舞台で薬学への貢献を果たしていきたいと思っております。薬友会の皆様の温かいご支援を宜しくお願ひいたします。

研究室紹介

遺伝子資源応用研究室



当研究室は平成6年6月の薬用資源教育研究センターの設置と一緒に誕生した新しい研究室です。現在(平成10年2月)、斎藤和季教授、山崎真巳講師、野路征昭助手のスタッフ3名にボストク2名、博士後期課程大学院生5名、博士前期課程大学院生7名、4年生5名の総勢22名の構成で研究、教育を遂行しています。

この全国的にも極めてユニークな研究室の目的とする研究分野は、昨今の分子生物学やバイオテクノロジーの進歩を基礎として、薬用資源植物における有用物質生産を遺伝子レベルで研究し、これを遺伝子改良することです。この目的のためには、まず有用物質が作られる仕組みを分子のレベルで精密に解明し、それを基礎に人为的に操作し応用することが必要です。そのための基本的戦略として、食物からの有用物質生産に関わる遺伝子のクローニングとそのエンジニアリングを設定しています。特にエンジニアリングは、最終的には有用なトランスジェニック(遺伝子組み換え)植物をつくることに主眼をおいています。研究遂行上の基本姿勢として、薬用という立脚点を見失わず、かつ近視眼的な薬用にとどまらず、より一般性のあるスタンダードの高い研究を目指しています。

(野路 征昭)

薬化学研究室



約30年に亘り薬化学研究室を主宰された坂井進一郎教授の定年退官をうけ、1995年名古屋市立大学薬学部から濱田康正教授が着任しました。翌年には、原修講師、本橋弓子助手が加わり薬化学研究室の新体制がスタートしました。また、研究室も3号館3階に教授室と2部屋、1号館2階に3部屋が配置され、文字通り新体制、新研究室での船出となりました。現在はスタッフに加え、大学院生6名、学部学生2名という構成で研究が行なわれています。

現在、研究は、光学活性化合物の効率的合成を中心に行なっております。一般に生理活性を示す光学活性化合物において、光学異性体間では、生体に対する作用に違いがあります。そのため世界で用いられている医薬品のうち光学活性化合物の占める割合は年々増しており、これにともない光学活性化合物の効率的な合成法の重要性も増大しています。そこで当研究室では、遷移金属が示す特異な反応性に注目し、酵素にも匹敵するような触媒反応の開発、新しい分子変換反応の開発ならびに生理活性物質合成への応用、更には高活性新規生理活性分子の創製を目指すという大きな目標に向かって、スタッフ、学生が日夜研究に勤しんでおります。

(原 修)

クラス通信



昭和3年卒業（思葉会）

13年前、昭和60年4月に都内日比谷公園松本樓でのクラス会に卒業者43名中10名の参加者があったのに現在では生存者は岡山の歳森君と都内在住者3名のみとなった。高齢化社会でモウではなくようやく92才になって振り返ると80才代中期位迄は健脚者として自他共に認め合ったのに最近では信じられない位下半身が漸進的に不如意になっている。之は不可抗力的な加令現象ではなかろうか？と思考して居る次第。

折りしも第18回冬季オリンピック長野大会開催中（2/20）でフィギュアスケート最年少15才の小さい体で重圧をはじき飛ばした怖い者知らずの妖精にふさわしい！と称賛を惜しまない実況をテレビで観賞した。若さは素晴らしい。（丹野 雅道）

席を得て箱根湯本で楽しい集いでした。今年は掛川市の予定です。

（前納 勇）



昭和9年卒業（昭九会）

昨年も1月に牛山君が逝去されたのを知った。年齢も80を越えると意気地がなくなる。

集まろうと思っても自分自身や家族に支障ができる出席者が少数になる。まして、昨年から山中君が入院、目下リハビリに専念中で、尚更に会合が開けない状況である。

何とか今年こそ今年こそ会を開こうと考えているのだが思うようにはならない。

来年は会を開いた報告を会報に載せたいものだ。

（中村 晃藏）

昭和5年卒業（五葉会）

五葉会通信ですが私達会員は何れも卒寿となり平成8年以来集会も困難のため開催を中止いたしております。

なお、将来の集会も難しく思われますので、会費残金￥115,834.-を朝日新聞文化事業団へ寄附しました。

現在会員は次の15名になりました。

記

梅田 美喜 川口 光造 河村 泰治 後藤 登太
鈴木 信 高橋順一郎 寺島文一郎 長沢 進次
林 敏 平塚 政男 本田 順 本間 隆
森島 迪 山口 克 石田 新 以上15名。
(石田 新)

昭和8年卒業（八千葉会）

昭和8年3月に卒業してから65年目の春を迎えました。やちようかいと読んでいただきます。毎年2泊3日の集いを催しています。奥様が家族会員として参加するようになったのは昭和40年京都での集いからです。85才以上の高齢のせいもあり会員が減っていくのは残念です。平成9年は小川充弥君と伊東宏邦君が逝去されました。謹んで御冥福を祈ります。昨年は8人の出

昭和10年卒業（十千葉会）

十千葉会（会長 立崎 浩）の会員数は19名となり些か淋しくなりましたが現役で頑張っておられる友もあり心強い限りです。3～4年前迄は年1回一泊のクラス会で親睦を深めましたが（14、5名の出席）ここ2～3年は東京の日本橋クラブでの会食をするようになりました（6～7名出席）一年振りに元気な友と会えることは顔を見るだけで、充分生活に元気が与えられ頑張る勇気が出できます。今後共続けてゆく予定です。

（若林 元光）

昭和13年卒業（亥丘会）

1. 悲しいニュースが相次ぐ。

9年12月3日 滝川順三君が、

10年2月6日 竹内順三郎君が他界した。ご冥福を祈る。

1. 卒業60周年記念文集は18名の会員の投稿があり、泉富雄君と私が編集して9年12月に会員に送付した。

学校時代を懐しく想い出した。何回も繰返し読んだと御礼状を多数頂いた。

1. 本年5月22日に東京で記念クラス会を開催するの

で、多数会員の出席を希望している。

(藤沢 栄一)

昭和14年卒業

恒例により11月クラス会をお茶の水駅前新お茶の水ビル最上階21Fのレストランで開催、同所は交通の便がよく且展望絶佳。

OB会の宿命として次第に数が減ってくる。現在メンバーは20名、卒業時50名だったから40%の歩留りの状態。

ただ今回ははるばる大阪箕面市及び上越市からの参加を得て計9名とまあまあの数を得た。ただ八十路ともなればやむを得ぬこととはいえ、やっぱり病気の話が多いのが誠に残念。

(小山 義郎)

昭和15年卒業（二六会）

平成9年は、亥鼻会で4、5人と会談したがクラス会は開催できなかった。夜の会合はもう駄目という御人が増えたので、無理をしないことにした。

ところで訃報です。沈君（ソウル）が9年初めに、熊谷君は5月10日に、神戸君が12月21日に逝去された。ご冥福を祈りあげます。

神戸君は30余の役職をこなしている最中の急逝で、病気の気配はなかったとのこと。

(石丸 正美)

昭和16年3月卒業（一葉会）

平成9年の歩み

⑤ 5月8日 クラス会を宮城県鳴子観光ホテルにて開く。平田、大石（秀）、秋山、海老沢、重久、大沼、向井、7名集る。

5月9日 銀山温泉行組と、帰宅組と、古川市内で、中食后、別れ、再会を期し解散。

⑥ 久しう音信不通の張茂霖君、連絡があり嬉しいことなり。諸兄お元気で。

(向井 廣澄)



昭和16年12月卒業（宣葉会）

昨年は画期的な事に、クラス会を2回開催。6月14日に三田君のご尽力で盛岡市つなぎ温泉に集い、大瀬、君塚両君は奥様も参加、海東、西口、国友、塙原、三田、安田の10名でみちのくを満喫。秋には恒例の日本橋でクラス会。珍らしく1年間同窓の藤井常男君を交え、10月17日に林知夫、大瀬、西口、海東、君塚、繩田、国友、安田の9名で盛会。3月に原田君を天国に送ったが、あと20名健在。

(安田 英夫)



昭和17年9月卒業（翠葉会）

平成9年6月22日、大宮駅西口「瑞鱗」でクラス会を開催し、遠路杉山君、丸山君が出席した。丸山君は県知事より薬事功労者表彰を受けた。植原君は入院中で神山君は自宅療養中である。谷川君は神戸で罹災後更に夫婦共入院、長男が死去と災難続きでしたが破損のビルを復旧し立上りました。皆さんもお元気でおすそし下さい。

(堤 保二郎)



昭和18年9月卒業（丘ノ上）

1993年辻君の報告以来、同君の後を担当した秋山君の死去と不幸が続き、なにの因果かその後のお役を小学生に押し付けられこうしてワープロのキーを叩いているところです。長生きも楽しきかな？

今年の丘ノ上会は5/26(火)地下鉄丸ノ内線新宿3丁目下車、地上に出て紀伊国屋書店の隣りにあるビル7F交通の便よく、雨の心配無用な所です。ご案内

はまもなく届くと思います。期待す多数の御参集。
(新井 久人)

昭和20年卒業（るつぼ会）

平成9年度定例クラス会は、6月14日に例年通り上野蓬莱閣にて開催。出席者は13名（飯塚（俊）、大谷、岡部、川嶋、玉木、當山、中川、西川、宮峰、山本、横田、吉田、渡辺）の方々でした。今回は今迄幹事として運営に当ってこられた原文男君が9年1月に急逝されました為、横田、山本、吉田の3名が暫定幹事を勤めました。席上、原君の業績に感謝すると共に、幹事の選出、原君より引継いだ会計報告等が審議された後、歓談に一時を過しました。尚、幹事は暫定幹事3名が引き続き当らせて頂く事になりました。

本年は前記原君の外、8月に佐藤為次君が逝去されました。心からご冥福をお祈り申し上げます。

（吉田富佐男）

昭和23年卒業

97年のクラス会は5月17日、新橋「新橋亭」で開催。出席者の顔ぶれは若干入替ったが前年と同じ16名。二次会は神楽坂。今回の目玉はニュージーランドより出席された萱場忠一郎君。

彼は96年に健康上の理由から盛業中の眼科医院を閉じ、娘夫婦の住むニュージーランドに永住権をとり移住。クラス会後10月に帰国したがその前日有志の歓送会を銀座の「大志満」で開催。現在孫のお守りに忙殺されている由、諸兄からの便りを期待。住所：34A Harris Crescent, Papanui, Christchurch, New Zealand
（三浦 清）



昭和25年卒業

恒例のクラス会を平成9年10月1日（水）鬼怒川温泉で行いました。初めての平日開催で多少遠隔の地であったため出席者は9名と少な目でしたが、25年卒の生存住所判明者24名からすればまずまずの出席率でし

た。出席者のクラス会に対する熱意は高く、平成14年までの幹事についておおよその取り決めがなされ、特に平成12年は卒業50年目に当たるので盛大に行うことになりました。

（佐子 茂）



昭和26年卒業（26ふのはな会）

平成10年度のクラス会—26ふのはな会は、例年通り熱海の山木旅館で開催しますので、万障縁合せの上、出席される事を切望します。欠席の方々の近況報告を一覧表にして、夫々の活躍と健康を案じつつ、盃を交はして一夜を語り合えることが、毎年一回の楽しみな会として続いている。桜花と潮の香が、待っています。

（福島 靖）

昭和28年卒業（千葉薬二八会）

復興期には「花の二八」、成熟期には「ダメな二八」といわれた私ども大学1回生も、今年は卒業45周年、全員高齢者の仲間入りをしました。この間、ほぼ毎年のクラス会、5年毎の一泊旅行、10年毎のアルバム作成を定例行事として続けてきました。

今年は、今はなき亥鼻台の学舎跡を尋ね、連絡道路、テニスコート跡などを桜をめでながら散策し、九十九里一泊の旅行を予定しています。

（亀田 義夫）

昭和29年卒業

平成9年2月21日の山崎教授の最終講義には、クラスの有志9名が参集。最近の新薬創製論に耳を傾け、久しぶりに学問の雰囲気を味わいました。記念祝賀会後にはお互いの健康を祝して杯を交わし合い、過ぎし日を懐かしました。卒業時のクラスメート42名、本年は矢後君がこの世を去りました。ご冥福を祈ります。現在34名が頑張っています。平成10年度は、初夏に集まりを計画中。

（今野 一郎）

昭和30年卒業

毎年3月10日（旧陸軍記念日）に、東京は「赤坂東急ホテル」でクラス会を開催し、20人位の友が近況を語り合っていますが、卒業してから43年、今は社会の戦士としての義務（定年）もほぼ多数のクラスメートが果して、再び原点（卒業時）に戻り、互に名前を呼び捨てで学生時代の雰囲気を楽しんでおります。その折年一回の会合だけでなく、せめて千葉在住の者だけでも年4～5回語り合いたいとのことで早速「五五会」（1955年卒）と命名して、2年ほど前から西千葉の居酒屋「庄や」で初会合し、二次会は「カラオケ」と決めて、7～8名で楽しんでおります。（関 昇）

昭和31年卒業（千葉薬三一会）

卒業後定年まで日本経済成長の激動期を支えてきた昭和一桁生まれも、平成の世となりついに高齢者に分類されることになった。クラス会も全国を回るようになり、本年は5月18～19日に福島県の秘湯二岐温泉で旧交を温めた。温泉のみならず大内宿など近傍の名所を訪れたが、大腸菌の遺伝子などすぐに学術的話題になり、薬学教育の根の深さを感じられた。我々を育てた千葉大学薬学部の発展を期待している。

（星 昭夫）

昭和32年卒業

昨年10月4日に東京駅近くのホテルで卒後40周年記念のクラス会を開催した。日が良すぎて（？）他の行事と重なり都合がつかない人が多く、出席者は20名であったが、全員で近況を報告し、お互いの健勝を確認しあった。

5年毎のクラス会とは別に、数年前から首都圏在住の有志を中心に、卒業年次に因んで3月2日に10数名が集まりを持っている。

これまで44名全員が揃っていたが、昨年5月に鳥居仙三郎君が初めて鬼籍に入った。（片岡 久男）

昭和33年卒業

平成9年度のクラス会は5月24日、25日、箱根湯本「湯さか荘」にて先輩の吉田さん、医学部卒業の伯野さん久田さんを含めて22名が参加しました。内、女性クラスメートは6人です。冒頭に渡辺（和夫）さんに母校の現況をお話し頂いて、後は野天風呂やカラオケ等話は尽きませんでした。

翌日は大雄山最乗寺を詣でて（石段350段）その後、小田原城を見学しハードスケジュールを楽しみました。皆、気力・体力は十分です。その後、松尾君子さん（旧姓白熊）とシスウオンドさんの訃報に接しました。心からのご冥福をお祈り申し上げます。

（赤羽 康弘）

昭和34年卒業

昭和8年～12年3月迄の誕生日の人の集団だった私達34年卒も、昨年皆1回目の還暦を迎えた。しかしこの還暦を冥界で迎えた人が既に10人（47人中）に達した。1泊のクラス会も4回を数えるが、昨年は手違いで開催できず急きょ薬友会東京支部総会のあと喫茶店に有志が集った。今年は5月末箱根で集うことになっている

写真 左から2人目野村さんの顔がみえません。

（ANS）



昭和35年卒業（珊瑚会）

1997年4月12日、淑女7名紳士17名計24名が集った。場所は昨年に続き八重洲国際観光ホテル。定年退職など人生の変わり目の年代で、ここ3年毎年集い、各自の生活ぶりを披露し情報交換する。健康、介護経験（愛犬の介護もある）、趣味、新事業etcで話しあはない。卒業後38年振りの初めての出席組が3名ありもてもて。今成薬学部長の特別講演は今日の薬学教育と千葉薬の対応、施設移転の話など、奮闘ぶりに一同歓心。

（塩野谷 博）

昭和36年卒業

今年は全員が還暦を迎える節目の年となります。昨年の秋、箱根で同窓会を行い、温泉と料理とよもやま話に心ゆくまで堪能し旧交を温めました。当日は各人の近況を知らせる文集が花を添え、更に好い思い出となりました。ニュースでは川上さんが知事功労賞を授与され、馬杉さんが連続二科展に入選されたこと等が

あります。今度は京都で集まろうとの声が誰からともなく持ち上がり今から楽しみにしております。

(曲尾 長幸)

昭和37年卒業

昨年('97年)4月5日(土)に伊坂、西沢両幹事のアレンジにより、ホテルグランドパレス(東京・九段)にてクラス同窓会が開かれました。当日は生憎の雨模様でしたが、北海道、兵庫、和歌山、長野などの遠方組を含め27名が集まり、旧交を暖めました。次回は来年の春を予定しております。クラス同窓会の企画について、ご意見、ご要望をお寄せ頂ければ幸いです。

(斎藤 光高・郁子)

昭和39年卒業

平成9年3月21日に与座(島袋)さんの沖縄からのご上京を機に、増田(三浦)さんのご尽力を得てホテルKKR東京で久し振りのクラス会を開催。幸いにも15名〔今泉(酒井)、江崎、大城(柚木)、久保、坂井、佐藤敏、鈴木、立沢、徳増(関川)、戸塚、波多、増田、山口、与座、藤本〕という大勢のご出席を得て賑やかに行えました。クラス会開催を機に幹事を今泉さんに交代。

(藤本 治宏)

昭和41年卒業

卒業してからこの3月でまる32年となり、会社勤めの人達には、60歳の定年を前にして役職定年の対象となるような年齢となりました。薬業界はグローバリゼーションやらボーダレスエコノミーの進展など厳しい状況下にあり、中小・中堅企業その影響をもろに受け、生き残りのためにこれからますます厳しくなるのではないかと心配が募ります。

平成7年6月に一泊旅行のクラス会時、相羽さんと次回幹事を仰せつかったにもかかわらず、これまで何かとさぼって実行できていませんので、今年は6月頃には是非クラス会を開いて、第2の人生の生き甲斐の夢やら、学生時代の思い出話など、厳しさを吹き飛ばしたいと思っています。

(秋山 洋子)

昭和42年卒業

「月日の経つのは」の言葉どおり、卒後30年が過ぎました。顔合わせをしないまま20年近く経ってしまっています。同窓会よりの名簿の再編の要望があり、横

着な幹事の私が久しぶりに電話ではば全員の所在と現状を確認しました。声も話し振りも、学生時代のままの懐かしいものでした。とはいって、五十路も半ばとなり、生活にも仕事にも落ち着きが出て来ています。今年は同期会を行う好機と思い、実現すべく自らに言い聞かせていました。

(野中 浦雄)

昭和46年卒業

今の緑濃きキャンバスからは想像もつかないでしょうが、西千葉キャンバスの思い出と言えば、ほこりと砂利とダンプカー。あれからかれこれ30年、私たちも50歳代に足を踏み入れつつあります。前回は、帰らぬ人となった荒川(旧姓秋山)さんを偲んで薬学科だけでクラス会を開きました。(製薬化学科の情報を知らないのです。ゴメンナサイ) そろそろ、合同の同期会で、皆さんの活躍ぶりを聞ける頃だと思います。

(鹿庭なほ子)

昭和47年卒業

「クラス会へのお誘い」

40台最後の年を、心楽しい1日で飾りませんか。7月25日の生涯教育セミナーで最新の学問を聴いてちょっと賢くなった気分のところで、クラス会を開きませんか? 会費は7千円位を予定しています。場所は未定です。参加希望者に後日お知らせします。参加希望の方は、043-290-3003(上野)までファックスするか、kueno@p.chiba-u.ac.jpへメールして下さい。

(上野 光一)

昭和49年卒業

一昨年の6月に、薬学科・製薬化学科合同のクラス会が銀座で開催されました。卒業以来の人も多く、髪の毛に混じった白い物を自分と比較しながら、最初だけは控えめに……、時間の経つのもアッと言う間の一時でした。女性陣の話題のトップは子供の進学問題だったかな? その後間もなく、学生時代の文集や名簿を持って来て思い出話に几帳面にも資料を提供してくれた古館君の訃報に接しました。謹んで、ご冥福をお祈り申し上げます。次回は、オリンピックの年に開催の予定です。

(土屋 静子)

昭和50年卒業

昨年3月、東京で久々の同窓会を開いたところ、過去最高の50名が参加しました。卒業後20数年が経過したため、最初はその容貌から判別不能の人物？もいましたが、会が進むにつれ昔の記憶が鮮やかに蘇り、あちらこちらで昔話や現在の仕事、育児の話などに花が咲いていました。早くも次回の開催を望む声もでています。

（武藤 里志）



平成3年卒業

卒業以来、毎年8月下旬の土曜日には同窓会が開かれ、住所録と近況報告集が配られます。年中行事としてすっかり定着しました。今年は行けなくとも、来年もあるし……、と思えるのが良いところ。おかげで参加人数は、毎年40人を下りません。異動や転職された方も多く、育児に専念している方もちらほら。公私共に環境はどんどん変わっていますが、同窓会だけは変わらず続けて欲しいものです。しばらくいらしてない方、ぜひまた来てください。

（宮下 愛次）

平成4年卒業

卒業してからはや4年、時の経つことの早さを感じます。そのせいか、クラスの皆の様々な消息を耳にしますがこの頃は出産や結婚の話を多く聞きます。6月には古川さんが結婚するそうです。おめでとうございます。今年は2年ぶりのクラスが開かれる予定なので、皆でいろいろと話をしたいですね。

（護守 晃）

平成9年卒業

人生は自分のやりたいことのためにある。だから僕らの半分は院に進み半分は社会に出た。院に進んだ僕らは日々研究に励んでいるが、今多くの人は就職で頭を悩ませている。就職活動を通じて、社会の厳しさを実感している。就職したみんなは、もう僕らよりずっと厳しさにさらされているんだろう。それぞれの選択がどんな結果になるかもろんまだ分からない。でも、

それぞれの場で前に進もうとしている。僕らは長い助走を始めたばかりだ。

（伊藤 貴夫）

平成9年度4年生

4年生の前期は、授業を受けて研究室に行ったり、ある日は研究室に行ってから授業を受けたり、またある日は一日中研究室にいたりという日々を送っていました。また、時々、思い出したように金曜日に茶道部の練習に参加したりしていました。後期に入ると、授業もほとんどなくなりあまり人に会わなくなつたような気がします。また、後期には、約2週間の病院実習、大学祭のお茶会、週1回のサッカーの朝練、そして卒論などいろいろなことができ充実していました。特に病院実習については、最初は面倒だと思っていたけれど、終わってみると貴重な体験ができ良かったと思います。来年度は大学院に進学しますが、その前にある国家試験に合格して、無事M1になれればいいなと思う今日この頃です。

（山梨 瞳穂）

平成9年度3年生

授業日数の4分の3以上を占める実習、実習の連続で忙しく大変な1年でした。

特にこの冬は大雪続きで寒く、インフルエンザも流行し、厚着して大学に通ったのですが運悪く僕も試験期間中に39度6分という高熱を出しました。次が必修の試験だったので、病院に行き坐薬をもらって使ったところ熱がぐんぐん下がり、薬のありがたみを感じました。そうして受けた試験に「坐薬の利点を2つあげよ」という問題が出たのでした。

（和泉伊佐久）

平成9年度2年生

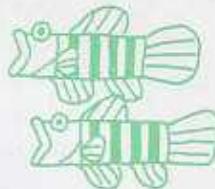
私達の勉学は化粧をするようなものである。教員、学校などは化粧する時の鏡に過ぎない。それを見ながら化粧をするのだから、鏡が曇っていたり汚れていては化粧する気にならない。参考書や教科書は化粧道具。さらに言えば、技術だって必要だ。しかし、綺麗に仕上げるのはやっぱり本人次第。どうやって鏡を使い、化粧品や技術を使ってゆくかは自分にしか分からない。これから、どんな化粧ができるのかとても楽しみである。

（右京 芳文）

平成9年度1年生

昨年の4月に薬学の世界に足を踏み入れてから、はやくも1年が経ちます。みんなの薬学への興味はかなりなものらしく、講義は真剣そのものです。クラスの雰囲気もかなり良く、お風呂ぐらいごこちがいいところです。よくみんなから、クラスでどこか行こう、という話が出るので、今年はいろいろな計画をして、みんなで楽しめたらと思っています。今年、2学年になるわけですが、さらに楽しい雰囲気のクラスになるといいなと思います。

(片桐 大輔)



支部だより

◎ 鹿児島支部

鹿児島県は全国でも有数の医薬分業の普及率を保っている。その先鞭をつけられたのが28年卒の吉水經久支部長である。はやくから、県薬剤師会の重鎮として、会員をリードし、立派な会館の建設や会営薬局の全県下への展開など、薬剤師活動の戦略的組織の構築に取り組んでこられた。その功績により、昨年11月、厚生大臣賞表彰の栄に浴され、1月13日会員が集い、盛大な祝賀会が催された。

小生は大坂在住のころ、はからずも、大阪府知事賞をいただいたことがあるが、吉水先輩の場合は、大臣賞は次なる紫綬褒章へのステップである。

近く、平成8年卒の鈴春江さんを加えて、支部総員3名で、水入らずのお祝いをするつもりである。

(検見崎哲夫)

◎ 東京支部

第30回日本薬剤師会学術大会が東京で開かれたので、大会出席の同窓の方々を迎えることを想定して、10月25日（土）一ツ橋学士会館で総会と卒後研修を開催した。今成登志男部長（S35年）から大学の現況を、澤井哲夫教授（S37年）から細菌の新しい薬剤耐性について、山田和見氏（S32年）から特許の話を聴講した。いずれも興味深い話であった。一昨年O-157で日本列島が恐怖の渦に巻き込まれたことでも参考になる話であった。また特許の話は実際的な話題であり

大学の先生方には示唆を与える話であった。研修後、懇親会で旧交を温め楽しい夕べとなった。出席者は66人で女性の方の出席者も相当増え会も一層盛りあがった。会の一層の発展を念じ、ご支援をお願いいたします。

(渡辺 楠)

◎ 神奈川支部

15年ぶりに医学部と合同で神奈川の同窓会を平成9年7月5日（土）横浜駅西口のホテル・リッチで開きました。医学と薬学（39名出席）と併せて100名の方々にご出席を戴き、盛大に催すことが出来ました。大学側から心理学者、名誉教授の多胡輝先生に特別講演を賜り、ご来賓として薬学部渡辺前学部長、医学部守屋整形外科教授そして東京支部長の渡辺氏をお招きしました。昔話に花が咲き、特に、60歳前後の方々から稻毛の教養学部の話が持ち出され、ボロ校舎や部活等懐かしい青春の思い出話に時間の経つのも忘れるほどでした。ただ、残念なことは平成の卒業生の参加が無く、若い人へのアプローチに課題を残したことでした。

(村瀬 一郎)



亥鼻会

創立 平成5年3月24日
 世話人 代表 岩城謙太郎 (S15)
 市橋 立彦 (S12) 藤沢 栄一 (S13)
 宗像小一郎 (S14) 井上 富夫 (S23)
 鮎山 晃生 (S24)
 年度別幹事 若林、山口、市橋、藤沢
 宗像、石丸、向井、安田、堤
 川崎、茂木、山本、塩崎、井上
 鮎山、鈴木、井瀬

会員の範囲……千葉薬専 S10~26卒業者有志

日時	講演者	出席者
第9回 9.3.18	井瀬日出雄通風友の会理事	45名
第10回 9.10.17	千葉薬学部長今成登志男先生	37名
第11回 10.3.12	墨田区村瀬 誠先生	(予定)
第12回 10.10.16	未定	

会場は日本橋倶楽部で12時~14時

春秋2回開催 (藤沢 栄一)



サークル紹介「薬学野球部」

秋季四大戦において優勝した。東大、阪大、京大、千葉大の薬学野球部が昭和37年から競いあってきた歴史の中で千葉大4年ぶり7回目の事だった。自分が入部してから3年、ベンチであるいはグランドの中で悔しい思いをしてきた。今年は必ずしも飛び抜けた能力を持った選手がいたわけではなかったが、自分たちは個々が持つ良さを發揮し、誰かのミスは別の誰かが補って素敵な野球をすることができたと思う。ありきたりの事だが全員がよくまとまる事ができた。

最後に、自分達は今年で引退するが来年から千葉大薬学野球部で活躍する選手、マネージャー全員がたのしく、セクシーな野球をしてほしいと願う。

(薬学野球部元主将 白井 利明)



労働大臣許可 社団法人 埼玉県薬剤師会 薬剤師無料職業紹介所

登録受付日:月~金曜日

(ただし、祝日・年末年始を除く)

受付時間:9:30~11:30及び13:00~16:00

〒330-8631 埼玉県大宮市土呂町1丁目50番地4

TEL 048-653-5261

FAX 048-652-6060

みのはな山岳会

平成9年夏、東北の名山・烏海山で最盛期の高山植物の群落に出会う事ができた。10月、秋晴の八ヶ岳(硫黄岳2,760m)で360°の大展望と美しい紅葉を楽しんだ。11月には一昨年亡られた萩庭先生が定年退官された折に御一緒に歩いた丹沢・大山(1,251m)を訪れ、20数名が集って先生を偲んだ。今年に入って1月浜石岳、2月足和田山と富士山を巡る山を歩いて来たが、目下今後の山行計画についてあれこれ検討中である。(写真は6月の月例山行:黒斑山山頂にて)

(吉田 智子)



福沢寿先生ご逝去

本学部元教授 福沢寿先生は平成9年2月22日にご逝去されました。医学部附属病院の薬剤部長であった福沢先生は、昭和26年4月より定年退官された昭和42年3月まで本学部薬剤学教室（現製剤工学研究室）教授を兼務されました。享年95歳でした。謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

原田正敏先生ご逝去

本学部元教授 原田正敏先生は平成9年8月14日にご逝去されました。原田先生は、昭和45年4月より昭和58年3月まで本学部薬品化学教室を主宰され、その後、国立衛生試験所（現国立医薬品食品衛生研究所）に転任されました。享年67歳でした。謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

薬友会より

“萩庭標本データベース作成協力会”について
故萩庭丈寿先生が生涯をかけて蒐集、作成された精緻標本は絶滅危惧種と云われるものも含めて日本全土の顕花植物の約95%にのぼり、ご遺族の依頼により現在薬学部生薬標本室に保管されています。これらの標本を今後確実に保管し、研究に活用する為には正確なリストの作成が急務と考え、昨年夏より週1～2回有志が集ってデータベースの作成を進めていますが、作業のスムーズな進行の為に“データベース作成協力会”を結成する事となり、趣意書及び会則を作成しました。この作業に関心をお持ちの方は下記へお問い合わせ下さい。

吉田智子（昭和30年卒）Tel 03-3781-6362
なお事務局としてゐるのはな山岳会有志が義務を担当しています。

平成10～11年 主な活動予定

10年5月 会報8号発行

7月 役員会・総会・生涯教育セミナー

12月 役員会・常任理事会

11年5月 会報9号発行

7月 役員会・生涯教育セミナー

12月 役員会・常任理事会

平成9年 活動報告

3月 新入生入会案内（終身会員101名入会）

5月 会報7号発行

7月 役員会（38名出席）

第6回千葉大学薬友会生涯教育セミナー開催（千葉大学けやき会館）

「今くすりは？」（講師4名、参加者203名）

12月 役員会・常任理事会（40名出席）

その他の活動のお知らせ

昨年に引き続き、千葉大学薬学部教官と共に薬学・薬剤師教育について体系的・継続的に学習する「卒後教育研修講座」を開催致します。研修テーマは「疾病的病態生理と薬物治療を考える」です。

日 時：平成10年4／25（第1回医療薬学シンポジウム）、5／23、6／20、7／18、8／22、9／19。いずれも土曜日。4／25のみ午後1時～6時30分。他は午後2～5時。

場 所：4／25のみ千葉大学けやき会館。他は千葉大学薬学部第2講義室。

参加費：1万円（4／25の第1回医療薬学シンポジウム参加費・懇親会費を含む）

参加希望者の方はご連絡ください。（担当：上野光一、電話・ファックス 043-290-3003）。なお、本講座は日本薬剤師研修センターの集合研修会の認定を受けますので、参加者には1回につき2単位の受講シールが発行されます（4／25のみ3単位）。

資金協力のお願い

本会の活動を益々盛んにするために、会員の皆様に終身会員へのご加入とご寄付をお願いしております。

1) 終身会員。会費2万円。昭和48年に開設。（現在50%加入）会員名簿を無料で配布します。

2) 寄付（1口2千円から）。特に、終身会費が1万円であった皆様、ご協力をお願いします。

3) 会報、名簿への広告掲載にもご協力下さい。
申込みは、同封の郵便振込用紙をご利用下さい。

名簿委員会からのお知らせ

平成7年度名簿の記載内容に誤りのある場合は、同封の連絡カードでお知らせください。乱丁本についてお取替えいたします。住所変更等が生じた場合は、

連絡カード（名簿綴じ込み）またはFAXにて速やかにご連絡ください（担当：遺伝子資源応用研究室 山崎真巳 FAX番号 043-290-3021）。薬友会への連絡の際は、1) 氏名のふりがな（索引作成上とても大切です）、2) 勤務先の正式名称と電話番号も忘れずにご記入くださるように特にお願い致します。氏名のふりがなや勤務先の正式名称が正しく登録されませんと、各索引に正しく記載されませんのでご注意願います。

平成7年度版会員名簿頒布のご案内

一部 5,000円（会員価格）

終身会員以外の方でご希望される方は名簿係にお申込み下さい。

各種委員会名簿

総務委員会 ○石井 勉、原 修、齋藤和季、村上泰興 (S 36)、立崎 隆 (S 41)、野中浦雄 (S 42)、澤井哲夫 (前委員長：アドバイザー)

バイザー)

財務委員会 ○原 修、石川 勉、齋藤和季、村上泰興 (S 36)、立崎 隆 (S 41)、野中浦雄 (S 42)、藤沢栄一 (S 13：アドバイザー)、高山廣光 (前委員長：アドバイザー)

名簿委員会 ○齋藤和季、懸川友人、山崎真巳、野路征昭、石川 勉、原 修、村上泰興 (S 36)、立崎 隆 (S 41)、野中浦雄 (S 42)、石井伊都子 (前委員長：アドバイザー)

事業委員会 ○石川 勉、矢野眞吾、望月真弓、星野忠次、北島満里子、中山祐治、大川幸子 (S 32)、小川通孝 (S 34)、堀江利治 (前委員長：アドバイザー)

会報委員会 ○畠本 力、樹瀬泰宏、畑 晶之、戸井田敏彦、豊田英尚、小川通孝 (S 34)、加藤文男 (S 47)、角田範子 (S 52)、柴田直昭 (院生)、鈴木 淳 (院生)、渡辺和夫 (前委員長：アドバイザー)
(○印：委員長)

学部だより

1997年度 卒業生の進路

学部進学：千葉大学大学院39名

就職：三共5名、日本グラクソ2名、日本メジフィックス2名、藤沢薬品2名、その他企業18名、病院・薬局11名、公務員1名

修士進学：千葉大学大学院12名、他大学大学院1名

就職：萬有製薬3名、第一製薬2名、中外製薬2名、帝人2名、東京田辺2名、日本レグリー2名、その他企業23名、病院・薬局7名、公務員4名、その他4名

博士就職：4名 その他6名

1997年度 薬学部入学者出身校別一覧

20名 千葉県 (千葉4名、東邦大学付属東邦3名、東葛飾2名、佐原2名、安房2名、その他7校各1名)

3名 埼玉県 (浦和第一女子2名、その他1校1名)

静岡県 (掛山2名、その他1校1名)

山梨県 (3校各1名)

18名 東京都 (両国2名、農島岡女子学園2名、その他14校各1名)

2名 愛知県 (2校各1名)

宮城県 (2校各1名)

9名 神奈川県 (桐陰3名、その他6校各1名)

福岡県 (2校各1名)

8名 茨城県 (江戸川学園取手3名、土浦第一2名、その他3校各1名)

福島県 (2校各1名)

4名 群馬県 (太田女子3名、その他1校1名)
栃木県 (4校各1名)

1名 青森県、大阪府、滋賀県、長野県、新潟県、兵庫県、北海道、山形県、大分県

1997年度学会賞受賞

受賞月日	学会名・賞名	受賞者	受賞業績題目
平成9年4月3日	日本薬剤学会 日本薬剤学会優秀論文賞	小口 敏夫 小島 一也 渡辺 大一 米持 悅生 山本 恵司	Preparation of Inclusion Complexes of 1-Adamantanone with Heptakis-(2,6-di-O-methyl)- β -cyclodextrin by Sealed-Heating
平成9年3月26日	日本薬学会 平成9年度学術貢献賞(第4B部門)	渡辺 和夫	胃液分泌の機能調節機構と実験胃潰瘍病態モデルに関する薬理学的研究
平成9年11月5日	日本薬物動態学会 日本薬物動態学会奨励賞	細川 正清	カルボキシルエステラーゼの分子多様性と種差
平成10年3月25日	日本薬剤学会 第12年会優秀論文発表賞	山里 浩明	サリチル酸との密封加熱によるアシロースの構造変化と包接化合物形成

1997年度主催学会

日 程	学 会 名	場 所	主催研究室・代表者
平成9年6月24日～27日	The 14th Conference of Photopolymer Science and Technology (国際会議)	千葉大学けやき会館	津田穰 Conference Chairperson (千葉大学国際研究集会の一つとして行われた)
平成9年7月20日～21日	日本植物細胞分子生物学会シンポジウム「一次・二次代謝の分子生物学」	熊本大学	オーガナイザー：齊藤和季
平成9年10月27日～30日	The 4th International Symposium on Atomically Controlled Surfaces and Interfaces (国際会議)	早稲田大学国際会議場	津田穰 (組織委員、実行委員、プログラム委員、出版委員長)
平成9年12月5日	SUPAC-IR ワークショッピング	千葉大学けやき会館	製剤工学 山本恵司
平成9年12月12日	日本薬学会関東支部第22回学術講演会 テーマ：病態解明への最新戦略－分子治療へ向けて	千葉大学けやき会館	臨床化学 五十嵐一衛
平成10年1月23日	千葉大学有機合成化学シンポジウム ('98)	千葉大学薬学部、第2講義室	薬品合成化学 中川昌子

1997年度博士学位授与者一覧

甲号(博士後期課程)

氏 名	題 目
(平成10年2月18日)	
上野 靖彦	熱的方法による医薬品非晶質のキャラクタリゼーション
大森 修	配糖体型モノテルペノイドインドール及びイソキノリンアルカロイドの化学的研究
堂 志忠	Mechanism and molecular regulation of anthocyanin biosynthesis in <i>Perilla frutescens</i>
清水 寿一	タイ産アカネ科植物 <i>Uncaria attenuata</i> 含有新規 oxindole alkaloids の構造及び合成に関する研究
福地 智美	真核細胞における蛋白質合成開始機序
高橋 秀樹	高等植物における硫酸イオントランスポーター及び硫黄同化系遺伝子群の分子生物学的研究
春田 伸	β -ラクタマーゼの基質特異性および活性中心機能に関する研究
山本 レオナルド 智雄	Neuropharmacological studies on mitragynine and mitragynine pseudoindoxyl compounds related to a Thai folk medicine <i>Mitragyna speciosa</i> : Elucidation of opiate-like properties

LIMMATVAPIRAT SONTAYA

Inclusion Compound Formation and Guest Exchange Phenomena of Deoxycholic

Acid-Guest Systems Induced by Mechanochemical Process

渡邊 彰仁 10-ヒドロキシカンプトテシン脂肪酸エステル類及び9- β -D-グルコシロキシカンプトテシンの合成研究

乙号(論文審査)

氏名 卒業(修了)年度、所属

題目

(平成9年7月16日)

山野真由美 昭和63年卒業、山之内製薬

消化管運動機能における5-HT受容体の運動調節機構とそれらに関する動物種差

假家 悟 昭和59年卒業、東京通信病院

Cinnarizine および flunarizine より誘発される薬物性 parkinsonism の発現機構に関する研究

生塩 孝則 昭和50年北海道大学卒業、大鵬薬品

トシリ酸スプラタストで認められた光学分割現象に関する研究

小林カオル 平成3年東京理科大学卒業、千葉大学薬学部

医薬品代謝におけるCYP 2C19の関与 - Omeprazole, mephobarital, citalopramに関する検討 -

小山恵里子 昭和59年共立薬科大学卒業、国立国際医療センター

ヒトにおける抗うつ薬の代謝に関する研究

(平成9年12月17日)

木倉 瑞理 昭和63年卒業、厚生省国立医薬品食品衛生研究所

依存性薬物の毛髪への取り込み機構に関する研究

永倉 透記 平成3年修了、山之内製薬

セロトニン(5-HT)受容体刺激作用を有する消化管機能亢進薬の薬効評価に関する薬理学的研究

矢野 克彦 昭和43年名古屋市立大学卒業、山之内製薬

噴霧乾燥法を用いた難溶性医薬品の可溶化と消化管吸収性改善

濱壽 秀久 昭和58年卒業、東京医科歯科大学

肥厚性血管病変の発症、進展および防御機構に関する研究

(平成10年3月18日)

伊藤 修正 昭和55年東京薬科大学卒業、大正製薬

内服固形製剤のPreformulationにおける分子間相互作用に関する研究

石川 淳 昭和63年卒業、山之内製薬

気管支喘息における気道炎症の制御機構についての研究 - 知覚神経における炎症調節機構を中心とした検討 -

畠山 芳文 昭和61年卒業、藤沢薬品工業

Adaptive gastric cytoprotectionに関わるmediatorと機作の多様性に関する薬理学的研究

原田 直之 昭和62年卒業、田辺製薬

抗腫瘍薬のプロドラッグ化-水溶性誘導体の設計と合成

職員の異動(1997.5~1998.4)

9. 5. 1

樹瀬 泰宏 講師 升任(生物薬剤学)

9. 11. 1

石橋 正己 教授 升任(活性構造化学、北海道大学薬学部助教授より)

9. 6. 30

中村 智徳 助手 辞職(活性構造化学、仙北里研究所就職)

9. 12. 31

本橋 弓子 助手 辞職(薬化学)

9. 10. 1

小林カオル 助手 採用(薬物学、昭和大学薬学部助手より)

10. 4. 1

一橋由扶子 助手 採用(生物薬剤学、民間より)
山形 真一 助手 配置換(医薬品情報学、医学部附属病院薬剤部より)

第7回千葉大学薬友会生涯教育セミナー（宮木高明記念セミナー）開催のお知らせ

平成10年度の千葉大学薬友会生涯教育セミナー（宮木高明記念セミナー）を、昨年同様千葉大学構内正門脇の「けやき会館」にて開催します。我々医薬に関係する者にとって、「今使われている治療薬は万全だろうか?」という問い合わせは永遠のものかも知れません。本年度は、「新しい治療薬を目指して—治療の可能性と限界—」というテーマのもとに、まず大野先生に非臨床の立場から基礎的研究の話題を提供して頂き、そして菅野先生ならびに上田先生には医療現場での最新のお話を伺う予定です。一方、宮木高明記念セミナーでは上記テーマとは独立して、永井先生にこれから日本の薬剤師の在り方についてご提言頂く予定です。本年度から本セミナーは日本薬剤師研修センターとの共催となりましたし、またこのセミナーに先立って薬学部において薬友会の総会も開催されます。どうぞこの機会に是非母校に足を運ばれ、お一人でも多くの方がセミナーに参加下さいますようご案内申し上げます。

1) 主題：「新しい治療薬を目指して—治療の可能性と限界—」

2) 演題と講師

・薬友会会长挨拶 今成登志男（千葉大学薬学部長）

1. 「今の非臨床試験は万全か？」

大野泰雄（国立医薬品食品衛生研究所薬理部長）

2. 「今、感染症は？」

菅野治重（千葉大学医学部講師）

3. 「肝腎がなぜ腎？」

上田志朗（千葉大学薬学部教授）

4. 【宮木高明記念講演】

「目を世界に—日本の薬剤師に必要な国際的視点—」

永井恒司（星薬科大学教授）

3) 日時：平成10年7月25日（土）13:00から17:30

（この後ミキサーを開催の予定です）

4) 場所：千葉大学大学ホール（けやき会館）

千葉市稲毛区弥生町1-33 千葉大学西千葉キャンパス内

（JR西千葉駅北口より南門経由で正面方向へ徒歩7分。または京成電鉄みどり台駅より正門経由で徒歩6分）

5) 参加予約の方法：同封の申込用紙に、参加者氏名、住所、卒業年次、職業をご記入の上、下記郵便振替講座に参加費をお振込み下さい。

00150-5-551796 千葉大学薬友会

参加予約締切：平成10年7月10日（金）

6) セミナー参加費：2,000円（予約時）

3,000円（当日、非会員）

7) ミキサー参加費：2,500円（予約時）

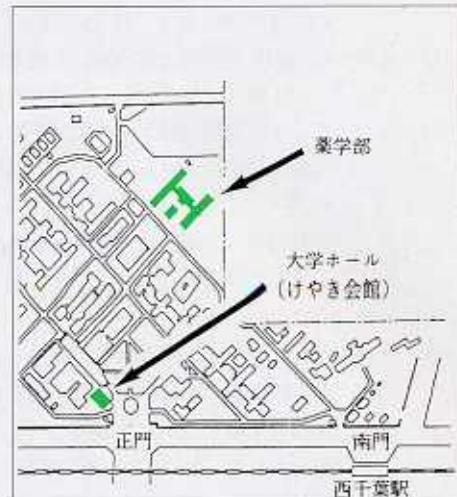
3,000円（当日、非会員）

8) 連絡先

〒263-8522 千葉市稲毛区弥生町1-33

千葉大学薬友会事業委員会（担当 石川 勉）

TEL/FAX 043-290-2910



平成10年度千葉大学薬友会総会のお知らせ

1) 日時：平成10年7月25日（土）11:00から12:00

2) 場所：千葉大学薬学部第2講義室

3) 議題：1. 事業報告 2. 会計報告 3. 役員改選

4. 事業計画 5. その他

懇親会は同日開催の生涯教育セミナーのミキサーと合同です。セミナーの方に申込下さい。

編集後記

昨年急に平成10年の薬友会報の編集を依頼され、少々戸惑いましたが、前年から担当されていた樹渕および畑編集委員の周到な準備のお陰で、例年にそれ程遅れずに最終稿に到達する事が出来ました。また、今回は例年掲載をお願いしていた名刺広告の依頼準備が遅れたため、薬友会報の発行を著しく遅らせないために割愛すること致しました。御了承下さい。今回の特集記事は長年地道な努力を続けてきたタイ王国との学部間交流を取り上げました。大勢の教官および学生の相互訪問を通じて、人と人との繋がりが益々確実なものとなり、これからも交流成果が大いに期待されます。クラス通信を読みながら、薬学部の現役と卒業生との間のより緊密な情報交換の必要性を感じます。これからは第一線で活躍されていた諸先輩の貴重な経験と知識を学部教育に反映する必要があると痛感しております。そのためには諸先輩からの情報の提供が必要で、薬学部のいわゆる“Senior network”を作らねばなりません。

会報委員

畠本 力（委員長）、戸井田敏彦、樹渕泰宏、豊田英尚、畠 品之、小川通孝（S34）、加藤文男（S47）、角田範子（S52）、柴田直昭（院生）、鈴木 淳（院生）